

令和2年度 学校経営方針

京都市立北総合支援学校 校長

1 教育理念

本校は、平成16年に成逸小学校（上京2番組小学校）の跡地に開設された地域に根差した地域の学校である。敷地内には成逸老人ディサービスセンター、成逸消防団や自治会館が設置され、地域との共有スペースもある都市型複合型の施設である。この環境を最大限に生かし、よりよい学校教育を通じてよりよい社会と豊かな人生の創り手として子どもを育てていくという理念を実現する。

今日、グローバル化や先端技術の高度化が加速度的に進み、将来の予測が困難な時代を迎えている。また、家庭の経済状況から生じる困り、子どもの安全確保、教職員の多忙化など、教育環境に関わる課題は多様化・複雑化している。このような時代を生き抜くために、学校教育を通して、生きて働く「知識・技能」の定着、「課題を見つけ解決する力」「夢や希望を創り上げる力」を培い、生涯にわたり学び続け、自分らしい生き方を追求する子どもを育成する。そして、一人一人の子どもが、「どのように学び、何ができるようになったか」「理解できるようになったことをどう使うか」を適切に評価する。

個別の包括支援プランを活用し、

1. 子どもを「できる存在」として捉え、できる姿を通して「生きる力」を育む
2. 地域社会と協働して、社会に生きる子どもを育む
3. 自立と社会参加の実現に向けた生活態度や規範意識を育む

ことを実践するとともに、子どものいのちと人権を徹底的に守ることを通して、自分を大切に、他者とともに生きる喜びを実感し、豊かな人間性と創造力を育めるよう、学校生活全体を通して道徳性の涵養に努める。

2 学校教育目標

自分から、自分で、自分らしく、みんなとともに、学び合う子どもの育成 (主体的) (自立) (自己の確立) (社会性・協調性) (創造力)

3 めざす児童生徒像

<授業づくりにおける重点的取組>

- | | |
|-------------------|------------------------------|
| ◆健やかな身体をつくる | 生活リズムの確立、健康管理、衛生や安全への意識 |
| ◆元気にあいさつをする | 運動やスポーツの実践と体力の向上、食生活 |
| ◆考え、工夫し、生き生きと表現する | 挨拶、基本的生活習慣の確立、自ら律する力の育成 |
| ◆願いや夢を持って心豊かに生きる | 探究活動や発展的な活動による自己表現力、問題解決力の育成 |
| | 社会との接続やつながりを実感できる授業への改善 |
| ◆役割を担い、役に立とうとする | 自己調整力、自尊心、感謝する心等道徳性の育成 |
| ◆他者とともに生き、学び合う | 伝統文化や芸術を通じ、豊かな感性や情操を育む |
| | 余暇活動につながる取組の充実 |
| | 小学部段階からの系統的なキャリア教育の推進 |
| | 児童生徒会活動、学校行事等による協力する態度、 |
| | 支え合い高め合う集団づくり |

4 今年度の取組の重点

(1) 社会に開かれた教育課程の再創造

- ① 教育課程検討委員会と研究推進委員会を軸にし、研究活動の推進を図る
- ② 各部におけるカリキュラム・マネジメントを推進する
- ③ 卒業後の姿を見据え、地域とつながる教育活動を推進する
- ④ 学校内外の人的・物的資源を有効に活用する
- ⑤ 教職員一人一人が持てる専門性を最大限に発揮し、働きがいを感じることができる組織づくりをめざす
- ⑥ H Pや学校だより等の充実により、教育活動の発信と説明責任を適切に実行する

(2) 一人一人の子どもの主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりと授業改善

- ① 各部のカリキュラム・マネジメントの充実により教育課程の改善を図る
- ② たて・横のつながりを見据えユニット学習計画表の充実・発展を図る
- ③ 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向う力、人間性」の観点を踏まえた目標設定と評価のあり方について検討する
- ④ 授業者主体の授業研究会を実施する
- ⑤ 専門性、授業力の向上を図る研修や学習会を計画実施する
- ⑥ 教育課程検討委員会と研究推進委員会を軸にし、研究活動の充実を図る

(3) 様々な危機に対応し、持続・発展し続ける取組の推進

- ① 無駄を省き、物を大切に扱い、子ども、教職員、地域に優しい環境づくりを進める
- ② 様々な災害に対する防災意識の向上を図り、避難訓練や地域防災訓練等に主体的に取り組む
- ③ 全教職員が積極的に環境美化活動に取り組む
- ④ 教職員一人一人が人権に対する意識を高め、風通しの良い職場づくりに努める

(4) 地域との協働・連携、地域支援の取組の推進

- ① 福祉、労働、行政、医療等との連携を深め、積極的な進路指導や取組を充実する
- ② 育支援センターによる相談・支援業務を推進する
- ③ 教職員が積極的に地域行事やP T A活動に参加協力し交流を深めるとともに双方向の関係を構築する